

特集 新たなる飛躍！—研究開発力強化と次代の日本を担うリーダー的人材の育成—

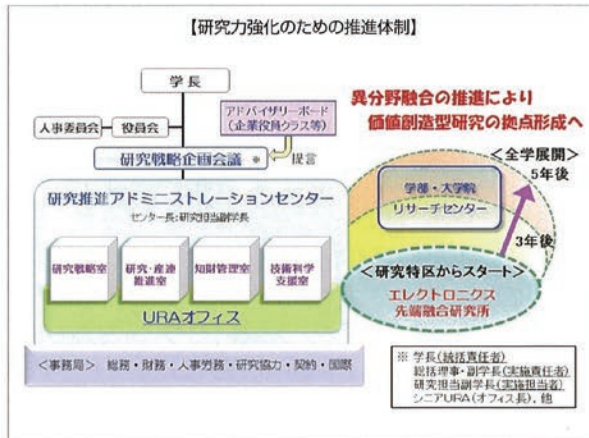
いて、特に東南アジアとの関係が深いことが強みであり、今後は、グローバル工学教育推進機構の組織化や東南アジアへの海外キャンパス設置等で、さらなる国際化を図ります。また、エレクトロニクス先端融合研究所を中心として国際化を展開することで、外国人教員比率を向上させます。さらに、知財・法務関係の国際化に対応するため、国際コンプライアンスを担当する人員を配置します。

「研究分野」に関しては、異分野融合研究の推進・強化に資する特筆すべき数々の研究成果があるという強みを活かし、これまで培ってきた異分野融合的研究を全学的に推進することで、現在の「課題解決型工学」から「価値創造型工学」へと進化させていきます。

「研究推進体制」に関しては、競争的資金獲得のための支援体制や、産学連携による知財創出の支援体制を整備することで、科学研究費の研究者一人当たりの採択率・配分額や、特許権実施等収入で強みを発揮してきました。一方で、大型または国際的なプロジェクトの企画・支援体制は十分とは言えませんでした。そこで、研究力強化に向けた全体方針を決定するため、事業統括責任者である学長のもとに、新たに「研究戦略企画会議」を設置します。また、研究力強化を推進する組織として平成25年12月1日に「研究推進アドミニストレーションセンター」を設置しました。同センターは、「研究戦略室」「研究・産連推進室」「知財管理室」「技術科学支援室」の4つの室と、各室に参画するURA(リサーチ・アドミニストレーター)を横断的に統括する「URAオフィス」で構成します。URAは、URAオフィス長であるシニアURAのイニシアティブのもとで、互いに連携して研究力強化に向けた取り組みを行います。「研究推進アドミニストレーションセンター」の設置に伴い、現在の研究戦略室と産学連携推進本部の機能は、同センター内の「研究戦略室」「研究・産連推進室」と「知財管理室」に発展的に引き継がれます。

以上のような方針を着実に実施することで、社会の抱える様々な限界を突破する研究力を備え、その成果を官・民と一体となって社会につなげることができる大学を目指していきます。

「研究大学強化促進事業」を成功に導くためには、事業の目的と本学の目指すビジョンを教職員全員が共有し、一丸となって取り組むことが重要です。関係各位のご理解とご協力をお願いします。



本学の目指すもの

限界突破研究力

- 社会の抱える様々な限界を直視し、その限界の突破を目指す研究開発力
- その成果を官・民一体となって社会へつなげるコミットメント力



- 【人】 優れた人材の登用・育成
- 【場】 価値創造型工学の場の形成
- 【体制】 創造的組織・研究者のための環境づくり



左から、原URAオフィス長、榊学長、石田研究推進アドミニストレーションセンター長